

自然休養林情報

台風一九号 屋久島に大きな爪跡

国有林でも林道・林地等に被害続出

台風一九号は、九月一四日強い勢力を保ったまま奄美大島の北側に十時間ほど停滞した後ゆっくり北上し、十五日夜半に、最も風雨をもたらす最悪のコースである屋久島の西側を通過し、島の北部及び西部を中心に国有林でも林地崩壊や、林道の橋梁及び路肩決壊が続出しました。

林道の被害は、大川林道等四路線四箇所、橋梁決壊と小楊子林道等四路線十八箇所の路肩決壊、治山被害では、黒味国有林でコンクリート谷止め転倒を含め土石流発生四

箇所、林地崩壊十四箇所など合計被害額は二億六千万円となりました。

これらの被害や県道の寸断による、当保全センター事業のうち宮之浦治山事業の谷止工、白谷雲水峽の森林環境整



蛇紋杉倒れる！



分一太標杉コースの中間点として、また道標として、まの岐の蛇紋杉が9月中旬の台風19号により根元から倒れてしまいました。

樹齢2000年と言われ、幹の断面が丸く、表面の皮が剥がれて、波のような凹凸がある。また、幹の断面が丸く、表面の皮が剥がれて、波のような凹凸がある。

この蛇紋杉は、今後は利用方法として、木材として利用される。また、蛇紋杉の木材は、今後は利用方法として、木材として利用される。

備推進協力金実施業務、各種試験調査など今後の事業実施に大きな影響がでています。この期間に当保全センターで設置した雨量観測のデータは、昨年九月の二十一号台風により劣らない降雨量がありました。(裏面にデータと分析報告)

ヤクタネゴヨウ

秋の現地調査ラッシュ！

屋久島と種子島だけに生育するヤクタネゴヨウ(五葉松)は絶滅が心配されています。これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。

これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。

これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。

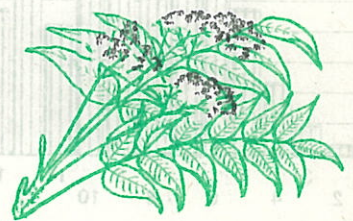
これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。これを防ぐためにいくつかの研究機関で調査が進められています。

夏休み後の清掃登山を初めて実施

九月四日、夏休み期間中における屋久島山岳部利用対策のモニター啓発の一環として清掃登山が実施されました。

この日、屋久島の両町を始め関係機関から約二十名が参加し、縄文杉グループと宮之浦岳グループの二班に分かれて実施され、当保全センターも縄文杉グループに二名が参加

屋久島の植物



カラスザンショウ (みかん科)

温帯から暖帯に分布し、大きいものは高さ十五m程になる落葉高木。枝に多数の棘があり、葉は奇数羽状複葉、小葉は多数つき広皮針形、縁には低い鋸歯があり両面無毛、裏面は粉白色で葉脈が突出する。花は白色の花弁をつけ七月八月頃咲くが今なお里山で見ることが出来る。

九州大学林学科では、平成六年から調査を進めている球果の生産量や個体群の動態等について今回追跡調査をしました。

また、森林総合研究所九州支所でもヤクタネゴヨウの枯損の原因究明のため



お知らせ

谷止工の完成と新規着工

昨年9月末の台風二一による災害復旧治山工事である宮之浦川流域二箇所(コンクリートダム)が九月中旬完成しました。また、同箇所では、その上流(二箇所)に新規の谷止工の建設に着手しました。

白谷雲水峽 協力金業務運営休止

白谷雲水峽は、県道の通行止めにより、森林環境整備推進協力金実施業務を一時休止します。

台風19号時の、各観測点の雨量データ

9月14～16日の3日間で約1日半暴風域に入り、長時間に渡る降雨で屋久島に多大の被害をもたらした台風19号、その雨量はどれくらいだったのでしょうか。

保全センターでは屋久島の各地点（7箇所）に雨量計を設置し、データをとっています。

そこで、今回データを回収した白谷観測点・淀川観測点・小杉谷観測点・保全センター観測点の4箇所についてデータを掲載します。

各観測点の14・15・16日の3日間の雨量は表-1の様になっています。（ただし、白谷観測点は15日夜半から16日未明の間に設置箇所が土砂の崩壊に合い16日からの雨量は観測できていません。）

(表-1)

	14日	15日	16日
淀川観測点	476.0	968.0	387.0
白谷観測点	353.0	643.5	(17.5)
小杉谷観測点	380.5	625.5	401.5
保全センター	179.5	358.0	298.5

この表を見ると、各観測点とも雨量は多いのですが、特に淀川観測点の15日の雨量は968mmと群を抜く数値になっています。

昨年9月の台風21号も大雨により多大な被害をもたらしましたが、その時観測点の中で日雨量が最大だった淀川観測点の雨量は9月29日の707mmでした、今回はそれを約260mm上回る数値になっています。

次に各観測点の9月15日の時間毎雨量をグラフにしてみました、これにより今回の台風では雨が1日中平均して降っているのではなく、午前中に1回午後から1回の山場があることがわかります。

ちなみに、時間雨量の最大値は淀川観測点午前10時の82.5mmです。

そして各観測点の標高が淀川観測点1380m、小杉谷観測点680m、白谷観測点560m、保全センター観測点20mとなっており、標高が高くなると雨量が多くなる結果がでました。

道路不通等のため今回は4観測点のデータになりましたが、今後もこのように観測値をできる限り早く公表していきたいと思っています。

